

いつでもいけるよ 畑は遊び場

～未来のための人材育成！野菜が育つ、子どもも育つ、大人も育つ～



～ 目次 ～

- ◎ 収穫した野菜でクッキング
- ◎ 乳児クラスの子どもの様子
- ◎ 畑は遊び場・保育教材の宝庫
- ◎ まとめ・今後の課題

社会福祉法人おかやま福祉会 おかやまこども園



～ クッキング活動 ～

麦の収穫→麦穂切→脱穀を子ども達と一緒に行いました。その過程の中で「パンにしたい」「ピザにしたい」「うどんがいいよ」など、子ども達から声が上がりに楽しみにしていました。

< 収 穫 >



< 麦穂切 >



< 脱 穀 >



子①：この容器使ってみよう！
子②：できるかな～？
 転がしてみたら！！
 挑戦中・・・
子③：バット使いやすいよ！

子ども達は、周りにある物を使って叩いたり、こすったりと試行錯誤しながら麦の脱穀作業を行いました。

📁 小麦粉からパンになるまで 📁



①先生に教えてもらいながら、自分達で作った小麦粉に塩などの調味料を入れていきます。早く食べたくてウキウキです。

②袋の上からこねていきます。「なんか むちむち する」と感触を楽しみ気持ちよさそうに混ぜていました。

③「できたー！！」とできたてのパンを喜び「あまいにおい」「こげたにおい」と口々に嗅覚を使って感想を述べていました。

④試食会では、「ふわふわー」「やっぱりあまい」「またつくろう」と、美味しくいただきました。

🍷 小麦粉からピザになるまで 🍷

ピザ作りの具材をみんなで話し合い…

- 保 : ピザの上になにのせたい？
子 : コーン！ウィンナー、サラミ！
子 : チーズはたっぷりのせたい！
保 : ピーマンは入れる？
子 : ちょっと苦いからやめるー

などなど、子ども達からいろいろな声
が上がりました、お家で作ったこともあり、
たくさんの意見がでました。



①これからピザ作りを始めます！



②よくお話を聞いてからピザ作りスタート！



③生地をコネコネ。どんな形にしようかな～



④トッピングはツナにコーンにウィンナー
チーズはいっぱい乗せました。



いただきまーす♪



ん～おいしい♡

◎ 麦を育てた事で、様々な工程をへて小麦粉になる様子を
子ども達自身が体験できる貴重な機会となった。どの工程
でも、子ども達が最後までやり遂げようと頑張る姿がみら
れた。

◎ 食べ物に対する興味・関心の深まりから小麦粉からどんな
ものが作られ、自分達は何をつくることができるのかと考え
を巡らせる機会となった。

◎ 麦栽培の活動から、自然物との関わりを広げおもしろさや不
思議さ美味しさなどを感じられた。

～ 1, 2歳児も野菜にふれて～

< 探索遊び >



子：これなあに？
保：トマトだよ。
子：え～。あかじゃないの？
たべれんの？
保：それは、赤ちゃんトマト
なんだよ。
もう少し大きくなって
から食べれるよ。

< スタンプ遊び >



保：この野菜知ってる？
子：びーまん！
子：なす！
保：においを嗅いだり、触って
ごらん。
子：（顔をしかめる）
子：つるつるー。おもーい！
保：ピーマンってこんな匂い
なんだね。

～豆苗を収穫しよう！～



< 水やり >



< 収穫 >



次は、野菜を切って中身をみました。
スタンプ遊びでは…

子ども達の中で
「おほしさみたいだね」
「きらきらー」
と、楽しむ姿が見られました。
また、その様子を見ていた他児も
「あたしもやりたい。かして」
と集まり始め、遊びや楽しさを共有
していました。

「おおきなあれ♪」と毎日水やりをしました。
一口食べた時に…
「くさいくさい」と言いながらも
「おいしい！」と食べていました。

豆苗を育ててからの子どもたちは、給食に
出てくる野菜の名前をきいたり、自分で野菜
を食べようとする気持ちが見られるようになり
ました。

◎ 畑で育てた野菜に興味を持ち、保育教諭
と一緒に色や硬さなど、いつも給食に出て
くる野菜との違いに気付く良い機会となっ
た。

◎ 食べること以外にも匂いや触感などから、
色々な事を感じ発見することができた。

◎ 子ども達同士で感じた事を共感し合い
“やってみよう”と思う意欲に繋がって
いった。

～ 畑は遊び場！～

《 泥だんご作り 》



子：どろだんごつくりたい！
 保：サラ粉と水を混ぜるよ。
 子：うわぁー！すごい！
 なんか！かわってきたー

砂場と畑の土質の違いに気づくと、畑の土を使って『泥団子作り』が始まりました。経験のある年上の子の真似をして“サラ粉作り”や“ピカピカ光る泥団子作り”に挑戦しています。毎日、様々な発見があり遊びが展開したり、継続したりしています。



《 自分達で山を作って滑り台 》



《 砂山へ畑に合った枝や葉を装飾 》



- ◎ 畑や砂場の土に触れることで土質の違いに気づき、遊びによって土を選んでいた。
- ◎ 畑での砂山や穴掘りなど、年齢を問わず遊びが盛り上がり、時には根の深い草をむしり採ることも遊びになるなど、子ども達にとって遊び場としての畑の存在が大きくなった。

～ 市長さんと一緒に野菜の苗を植えました～



収穫した際に…

子ども達から「しちょうさんに届きたい」と声上がり実った野菜を福島市役所に届けました！！



まとめと今後の課題



《 目標と目的 》

- ◎ 子ども自らが畑で『探して』『見つけて』『調べて』『育てて』『やってみよう』という多様な遊びの経験。
- ◎ 経験し学んだことを遊びや生活の中に生かし、互いに共有する事で学びを深めていく。
- ◎ 自然体験の中で『なぜ?』『どうして?』『なんだろう?』を共有し一緒に学び、子どもも大人も成長していく。
- ◎ 年間を通していつでも関わることのできる畑を、遊び場として活用する。



《 成果と気づき 》

- ◎ 継続した取り組みから、子ども達が積極的に畑に関わろうとする姿が全園児にみられるようになった。その中で、主体性のある遊びが展開されていた。
- ◎ 土づくりや草むしり、水やりなど、保育教諭の模倣が子ども達の経験として活かされ、自主的に行うようになった。
- ◎ 様々な自然体験が、子どもの好奇心や探求心を高め、生きる力を育むきっかけとなっている。
- ◎ 野菜栽培、探索活動、泥遊び、雪遊びなど、子ども達にとって畑で遊ぶことが生活の一部となり、毎日が学びの場となった。

《 今後の課題 》



前年度から継続した取り組みで、今年度は子ども達にとって畑が遊び場・作物を育てる場として、より身近な存在となりました。また、作物を育て収穫し調理して食べるといった生きるために必要な「食」に対する流れが身に付き、「○○にして食べたい!」といった声が自然と子ども達から聞かれるようになりました。もちろん失敗や上手くいかないこともありましたが、その経験から探求心や次へ繋げようとする力が育つ場面もありました。

これからも、主体性を尊重しながら、子どものつぶやきや思いから遊びが展開していけるよう、物的環境・人的環境を整え実りの多い畑作りをしていきたいと思えます。

